

## 「医療費について考える」

福岡市立壱岐中学校

桑原 士道

僕は中学校に入学して、陸上部に入った。しかし、3年間ケガばかり。練習中に右足の中足骨を骨折。完治するまで3か月かかり、中総体に間に合わず悔しい思いをした。やっと走れるようになった矢先に、左足を骨折。足をギプスで固定し、不自由な生活。走ることはできず、筋トレなどできる範囲でトレーニングを続けるしかなく、整形外科に頻繁に通い、レントゲンを撮って骨の状態を確認してもらう日々が続いた。

「しっかり治して、次の大会では自己ベストを更新しなさい！！」といつも励ましてくれる両親に、僕がケガをしたことで、余計な心配や負担をかけている、それは気持ちの面でも、病院に付き添ってくれる時間の面でも、費用の面でも負担をかけていると思った。

そこで僕は、福岡市の子ども医療費助成制度について調べてみた。福岡市においては、通院は小学校6年生まで、入院は中学3年生までが助成の対象であることがわかった。だから通院のみで治療をしている今の僕は助成の対象外である。そのことを母に話すと、今まで受けた予防接種や健診で助成を受けていること。また、いままで大きな病気をせずに、健康に育っていることに感謝しなければならないことなど、医療や税金について話をする機会になった。それまでの僕は、税金についてあまり考えていなかったし、消費税くらいしか意識していなかった。しかし、母と話をしていて、税金の支出の中で社会保障関係費が約35%と、1番割合を占めていることを知り、医療費も社会保障関係費に含まれていることを知った。

両親が医療や教育関係の仕事をしていることもあり、難病を抱えた子ども達がいることも知り、その治療には高額な費用がかかるケースが多く、家計を圧迫してしまうらしい。でも、大切な子どもの命のために、親はできる限りの治療を望む。お金はかかっても命にはかえられない。そのような状況の子の医療費を助成するための、慢性特定疾病医療給付制度があることなども知った。子どもの病気で仕事を続けられなくなる親もいる中で、医療費の負担を軽減するために税金を使うのは必要なことだと思う。

母は、「あなたが元気でいてくれるから仕事を続けることができる。だから、そのことに感謝して一生懸命働かし、税金を納めるのも当たり前のこと。あとは、本当に必要なことに税金を使ってもらえればいいよね。」と言っていた。

僕も健康でいられることに感謝して、大人になったら、きちんと仕事をして税金を納めていけるように、これから自分の夢に向かって努力していこうと思う。そして、もっと政治や経済にも関心をもつ必要があると感じている。